

情報通信審議会 情報通信技術分科会

電波利用環境委員会 CISP F 作業班（第 17 回）議事録（案）

日時：平成 30 年 8 月 29 日（水） 15：00～17：00

場所：中央合同庁舎第 2 号館 8 階 1001 会議室

出席者（敬称略）：

（構成員）

主任	山下 洋治	（一財）電気安全環境研究所 横浜事業所 EMC 試験センター 所長
主任代理	平伴 喜光	（一社）KEC 関西電子工業振興センター
構成員	井上 正弘	（一財）電気安全環境研究所 横浜事業所 EMC 試験センター
	大武 寛和	（一社）日本照明工業会 委員
	梶原 英樹	（一財）日本品質保証機構 安全電磁センター試験部電磁環境試験課 主幹
	菅野 伸	NTT アドバンステクノロジー(株) グローバル事業本部環境ビジネスユニット EMC チーム 主任技師
	橋高 大造	（一社）電波産業会 研究開発本部電磁環境グループ
	高岡 宏行	（一社）日本配線システム工業会
	徳田 正満	東京大学大学院 新領域創成科学研究科先端エネルギー工学専攻大崎研究室 客員共同研究員
	中野 美隆	（一社）日本電機工業会 家電部技術課 主任
	橋本 明記	日本放送協会 技術局送受信技術センター企画部 副部長
	前川 恭範	ダイキン工業(株) 滋賀製作所空調生産本部企画部
	三塚 展幸	（一財）テレコムエンジニアリングセンター 松戸試験所電磁環境・較正事業 本部電磁環境試験部試験グループ 主任技師

（事務局）

谷口 智哉	総務省 総合通信基盤局 電波部 電波環境課 電磁監視官
小橋 泰之	総務省 総合通信基盤局 電波部 電波環境課 国際認証係長
戸部 絢一郎	総務省 総合通信基盤局 電波部 電波環境課 電磁障害係長

配布資料：

資料 17-0	議事次第
資料 17-1	CISP F 作業班（第 16 回）議事要旨（案）
資料 17-2	CISP F 小委員会 WG1 フランクフルト会議審議結果
資料 17-3-1	CISP 釜山会議 F 小委員会 総会 対処方針（案）
資料 17-3-2	CISP 釜山会議 F 小委員会 第 1 作業班（WG1）対処方針（案）
資料 17-3-3	CISP 釜山会議 F 小委員会 第 2 作業班（WG2）対処方針（案）
資料 17-4-1	電波利用環境委員会報告概要（案）（F 小委員会関連）
資料 17-4-2	電波利用環境委員会報告（案）（F 小委員会関連）
参考資料 17-1	CISP F 作業班 構成員名

議事：

※括弧内は発言者（敬称略）

（１）前回議事要旨（案）について

- 資料 1 7-1 の前回議事要旨（案）についての説明（事務局）
※修正意見等あれば 9 月 5 日（水）までに事務局まで連絡することで承認された

（２）CISPR F 小委員会 WG1 フランクフルト会議審議結果**<資料説明>**

- 資料 1 7-2 CISPR F 小委員会 WG1 フランクフルト会議審議結果についての説明（前川）
※要点は次のとおり。
 - 参加者は山下主任、前川構成員の 2 名であった
 - 項目 8.1 CISPR14-1 の改正について、4 つフラグメント(f)があり、それぞれ CD や CDV を発行する
 - 項目 8.3 (CISPR14-1 f2)、8.4 (CISPR14-1 f3) について、CDV を発行する
 - 項目 9.1 CISPR14-2 の改正について 3 つの f があり、それぞれ CD や CDV を発行する
 - 項目 9.2 (CISPR14-2 f1)、9.3 (CISPR14-2 f2) について、CDV を発行する
 - 項目 11 について、電気髭剃りの試験前の慣らし時間に関して確認された
 - 項目 8.2 (CISPR14-1 f1)、8.5 (CISPR14-1 f4)、9.4 (CISPR14-2 f3) について、2ndCD を発行する

<質疑>

- 不確かさについて、CISPR においては MIU のみの記載であるが、それを基に修正したのか（三塚）
 - 修正している（前川）
- IH 調理器の測定距離の変更について、低い周波数による減衰量を考慮する必要がある（三塚）
 - CISPR 14-1 (f4) の 2ndCD では、CISPR11 等の換算係数が参照されると考えられる（山下主任）
- IPT（インダクションパワートランスファー）と IH 調理器は、原理は同じだが、動作条件、設定方法が異なるので試験方法を作る際は注意が必要である（三塚）
 - 今後も進捗を見守りながら提案をする必要がある（山下主任）
- ネイルガン、ステイプラーについて、負荷の有無で妨害波のレベルが変わらないという点について、実験されたということであったが、説明をお願いしたい（事務局）
 - 弾を飛ばすまでの工程（空気圧縮やスプリングで発射スタンバイ状態にするまで）で妨害波が主に生じ、弾の有無に関わらない形となる（前川）

（３）CISPR 釜山会議 対処方針（案）について**<資料説明>**

- 資料 1 7-3-1 CISPR 釜山会議 F 小委員会 総会 対処方針（案）についての説明（山下主任）
※要点は次のとおり。

- 審議項目 1～7. 3 まで、各報告やドキュメントの内容を確認する
- 審議項目 7. 3. 1 について、メール審議後に方針を決定する
- 審議項目 7. 3. 2、7. 3. 3 について、国内審議済、提案を支持する
- 審議項目 7. 4 について、国内審議後に方針を決定する
- 審議項目 7. 5、8. 1 について、内容を確認し、必要に応じて対処する
- 審議項目 8. 2. 1、8. 2. 2 について、国内審議済、賛成の立場で対処する
- 審議項目 8. 2. 3 について、国内審議後に方針を決定する
- 審議項目 8. 2. 4～12 までは内容を確認し、必要に応じて対処する
- 審議項目 13～13. 4. 1 までは報告を確認する
- 審議項目 13. 4. 2、13. 4. 3 について、CISPR15 へ CISPR/H で検討している伝導エミッションリミットを取り入れることについて照会されたときは、CISPR 規格の目的に反するため反対する
- 残りの審議項目について、報告を確認する

- 資料 17-3-2 CISPR 釜山会議 F 小委員会 第 1 作業班 (WG1) 対処方針 (案) についての説明 (前川)
※要点は次のとおり。

- 審議項目 1～6. 1. 1 まで、各報告やドキュメントの内容を確認する
- 審議項目 6. 1. 2～6. 1. 5 について、各 CD、CDV の内容や投票結果を確認し、必要に応じて対応する
- 審議項目 6. 1. 5 について、2ndCD の内容は今後国内審議予定である
- 審議項目 7. 1. 1～7. 1. 3 について、各 CD、CDV の内容や投票結果を確認し、必要に応じて対応する
- 審議項目 7. 1. 4 について、2ndCD の内容は今後国内審議予定である

- 資料 17-3-3 CISPR 釜山会議 F 小委員会 第 2 作業班 (WG2) 対処方針 (案) についての説明 (平伴)
※要点は次のとおり。

- 審議項目 1～5 まで、各報告やドキュメントの内容を確認する
- 審議項目 6. 1 について、CISPR15 の第 9 版で大きな変更点がある
 - ◇ 周波数範囲の拡大 (1GHz)
 - ◇ 信号線の扱いの変更
 - ◇ ラージループアンテナによる測定方法
- 審議項目 6. 2 について、FDIS の審議でカナダから多数のコメントが出されており、その内容が審議される
- 残りの審議項目について、報告を確認する

<質疑>

- 審議項目 6. 2 (5) と資料 17-3-1 10. 1. 1 において、同様の事を言及しているとみられるが、記載内容にズレがある。ラージループアンテナシステムは、やめてしまうということなのか (菅野)
 - 資料 17-3-1 10. 1. 1 におけるラージループアンテナシステムは、代替法という扱いであり、併用するということである (山下主任)

- 審議項目 6. 2 (5) は、3m、4m のアンテナでは実用的ではないため、ループアンテナ法について検討するということである(平伴)
- ループアンテナ法については、CISPR/A で検討している(平伴)
- 3m、4m のラージループアンテナシステムでの測定を削除して、60cm のループアンテナでの測定のみにするということなのか(井上)
 - 3m、4m のアンテナを用いる方法も残る(平伴)
 - 測定距離が 10m になった時、実際に測定は可能なのか(井上)
 - 今後、CISPR14-1 等と同様に測定距離について検討が必要となるだろう(山下主任)
- 単線配置の LED 照明の試験法の説明が分かりにくいので、図を作成することを日本から提案予定である(高岡)
 - その提案についても、対処方針に明記してほしい(事務局)
 - 釜山会議で、どのように提案すればよいか(高岡)
 - ◇ ドキュメントを作成して、事前に提出した上で提案するのが良いと思われる(会議)

(4) 電波利用環境委員会 報告書(案)について

<資料説明>

- 資料 1 7-4-1 電波利用環境委員会報告概要(案)(F 小委員会関連)についての説明(山下主任)
※要点は次のとおり。
 - トピックとして、CISPR14-1 で、許容地が 6 ギガまでという拡張される事について紹介する
 - 重点審議事項として、IPT について紹介する
- 資料 1 7-4-2 電波利用環境委員会報告(案)(F 小委員会関連)についての説明(山下主任)

<質疑>

- AC 電源ポートの配線長の変更について対処方針となるような表現をご検討いただきたい(事務局)
 - 検討して修正する(山下主任)

(5) CISPR 釜山会議 参加者(案)について

- 参加者は、資料 1 7-4-2 電波利用環境委員会報告(案)(F 小委員会関連)の最終ページの通りである(山下主任)
 - 総会に出席を希望する(前川)
 - ◇ 総会出席者は、電波利用環境委員会で検討いただくこととなる(事務局)
- ※その他出席者について、特に異議なく承認された

(6) その他

- CISPR/I、D、F において、1GHz から 3GHz の間で 4dB 緩和するという件が、CISPR16-4-4 に基づく検討がない形で決まってしまったという情報があったがご知見があればいただきたい(事務局)
 - CISPR/F は、過去の許容値と同じ許容値で提案されているはずである(山下主任)
- 7.4 の CISPR14 において、電圧プローブを廃止し、電流プローブに移行させることについて、日本の立場を明確にすべきではないか(井上)

- すぐに廃止をすることで何らかの影響がある可能性があり、懸念している(山下主任)
 - 規格のメンテナンス促進という面ではメリットがある(前川)
 - メーカーとしては、電圧プローブの廃止で評価のやり直しが発生する(高岡)
 - 猶予期間を設けること移行に伴う影響を減らせるのではないかと(三塚)
 - ◇ スタビリティデートが 2021 年なので、一定期間は確保されている(事務局)
 - ◇ 猶予期間があることで、メーカーは両方の評価をやらないといけない期間が発生する(高岡)
 - 対処方針案を作業班として明確にしていきたい(事務局)
 - 廃止するにしても、既存の電圧プローブで評価した製品の扱い等、市場への配慮を条件にすべきだ(前川)
 - 技術的には電流プローブのほうが優れている事は明らかで、移行が望ましい(井上)
 - そもそも CISPR の中で、猶予期間という規制に係る議論することはおかしいのではないかと(徳田)
 - 現状で電圧プローブを廃止することに関して、様々な意見があると考えられるので、意見を募って議論をしたい(山下主任)
- 今後の予定としては、9 月 18 日の電波利用環境委員会での審議がある(事務局)
 - 次回会合は、事務局から構成員にメールにて連絡する(事務局)

以上